

## 原爆犠牲者慰霊祭を挙る



式辞を述べる兼松医学部長



原爆で亡くなられたお父様の思い出を語られる角尾澄夫氏



献花台に花を供える参加者

原爆死没者教職員・学生 897 人の御霊を慰めるため、毎年実施されている原爆犠牲者慰霊祭が今年で被爆 60 周年を迎え、8 月 9 日（火）に医学部記念講堂において、御遺族、医学部長ら約 420 人が出席して開催されました。

まず兼松医学部長から、「原子爆弾犠牲者の御霊に謹んで哀悼の意を捧げるとともに、我々は放射線にまつわる負の遺産をも教訓として受け止め、今日まで培ってきた知識と技術を真に生かし、現在、そして将来の人類の幸福のために力の限りを尽くすことも、我々に課せられた責務である。」と式辞が述べられた後、中山成彬文部科学大臣の挨拶を加藤 健高等教育局医学教育課課長補佐から代読いただき、11 時 2 分の長崎市のサイレンと時を同じくして参列者全員で黙祷を捧げました。

次いで、当時の角尾晋長崎医科大学長の御子息である角尾澄夫氏から、原爆で亡くなられたお父様を追想するお話をいただきました。

引き続き、学長他大学関係者、御遺族ら参列者全員による献花が行われました。

慰霊祭終了後、医学部福利厚生棟において、学徒遺族会、教職員遺族会及び看護婦遺族会合同の追悼懇談会が行われました。

（医歯薬学総合研究科学術協力課）